

令和5年度 第12回「吉野谷地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年8月27日（日） 10：00～11：00

場 所：吉野谷公民館

参加団体等：吉野谷青年団、スポーツ協会吉野谷支部、吉野谷女性の会、吉野谷子ども会育成委員会、吉野谷公民館長、吉野谷地区社会福祉協議会、吉野谷民生委員児童委員協議会、市文化協会吉野谷地区、市南消防団吉野谷分団、白山市町会連合会理事、公民館館長など

発言【1】

- (1) 約40年前に、手取川ダム完成に向けて地元の理解促進を図るための補償事業として、北陸電力が、水道施設のパイプラインや冬期間の消雪及び夏期の農業用水としてパイプラインなどの整備を実施し、その維持管理を地域住民が担ってきたが、近年、経年劣化による老朽化が著しく、維持管理に苦慮している。
- (2) パイプラインの更新などの対策に、電源立地地域対策交付金を充当することができないか。

【市】

- (1) 北陸電力が整備したパイプラインは農業用水・消火用・消雪用など多岐にわたる用途で利用されており、施設規模も大きく、修繕する場合にはどのような補助金を用いるのがよいか、市域全体で検討したいと考えております。
- (2) 電源立地地域対策交付金については、白嶺小中学校のスクールバスの更新など、市事業において他の交付金、補助金を充てることのできない事業において優先的に活用しています。各地域からも要望等がありますが、限られた財源でありますので、全体の事業や有利な財源等を検討しながら対応してまいります。

発言【2】

吉野谷の旧庁舎を利活用すると聞いていたが、難航しているようである。現在公民館などが現吉野谷サービスセンター庁舎に含まれているが、この建物自体も古く、改修が必要になってくると思う。公民館を新しく旧庁舎跡地に建設しても良いのではないか。庁舎の活用について、今後どのように考えているか。

【市】

ジオパークの拠点施設として、旧吉野谷支所の跡地を活用する案がありまし

たが、多くの課題があり、難しい状況となりました。

旧吉野谷支所を再利用するには修繕等多額の費用がかかります。今後も地域の方々の意見を参考にした上で、近隣の状況を見ながら、解体を含め検討を続けたいと思います。

発言【3】

30年前に移住してきた当時は、吉野工芸の里にテーマパーク構想があり、観光客の誘致が見込まれると聞いていた。しかし現状ではそれはかなわず、さらには県が置いた土砂置き場が隣にできて20年以上はたっている。市として、今後どのように吉野工芸の里の開発を進めていくのか。

【市】

土砂置き場は県用地で、県に確認したところ、現在堆積している土砂については令和5年12月末には搬出が完了すると聞いています。吉野工芸の里の再整備については、白山市の工芸文化の発信地として、多くの人でにぎわう拠点施設となるようトイレや鶉荘の改修などを検討したいと思います。

発言【4】

吉野工芸の里については、昨年、地域住民と市の担当と検討会を数回行った。現在はあまり話が進んでいないが、地域の人々の思い入れも強く、文化や芸術を残していきたいと思う。移住して来た作家の方が、この土地で優れた作品をつくり、発信できるようにしていきたい。市は委員会を立ち上げるなどをして、話を進めて行ってほしい。

【市】

優れた作品を広く発信するため、これからもイベントの充実や休眠施設を活用するなど、関係機関とも連携して、作品の展示に努めたいと思います。

吉野工芸の里施設内の御仏供杉は国指定天然記念物であり、プロモーションを強化することで、ジオを体感できる場所としても、白山ろくの良さをPRできると思います。吉野工芸の里の再整備については、白山市の工芸文化の発信地として、多くの人でにぎわう拠点施設となるよう検討したいと思います。

発言【5】

- (1) 白嶺中学校の先生は、主要5教科に経験の浅い講師が配置されており、各教科に教員が1人しかいない為、テストの作成など難しいのではないかと感じた。保護者としては教員の配置に不安であり、人事は県が行っているとは思いますが、市

としても要望してほしい。

- (2) オンラインの授業を最近行っているが、オンライン授業を充実させるのならば、インターネット環境に関しても対応をお願いしたい。
- (3) 鳥越は今年1年生が1桁になってきており、子ども達のことを考えると今後学校の統合について検討を始めていく必要があるのではないか。

【市】

- (1) 教員、講師に関して、新任の先生が学校のことをすべてやるのは確かに負担があると考えられます。教師の正規職員が足りず講師を配置する場合、教員数の少ない学校では生徒・講師どちらも負担になるため、そうならないよう教育長などを通して県に要請してまいります。

- (2) 白山ろく地域については河内地域の一部を除き民間通信事業者のサービスが見込めないことから、合併後の平成18年度に白山ろく地域情報通信基盤を整備し100Mbpsのインターネットサービスを開始しました。

なお、当該設備については、令和2年度に設備更新を実施し、平野部と同等の1Gbpsのサービスを(株)あさがおテレビにて実施しております。オンライン授業についてもGIGAスクール構想の整備に合わせて各学校では、実施できる環境となっております。

- (3) 学校施設は地域社会と深い結びつきを持っており、地域における文化、スポーツ活動といった生涯学習の拠点的役割を果たすなど、地域コミュニティの中心的な存在であることから、適正化や適正配置を検討するにあたっては、地域住民からの要望を汲み取り、理解や協力を得ることが重要であると考えています。

本市における「学校規模適正化に係る基本方針」は平成26年に策定し、令和2年に見直しを行っており、今後の方針見直し時に、こうした地域等の要望を踏まえて検討していきたいと思っております。

発言【6】

学校の統合の件について、子育て世代である子ども会の人々は、全員が統合に賛成だった。地域としては、地域の学校が無くなることに強い抵抗があるのはわかる。行政として地域住民のさまざまな意見を吸い上げたうえで、最終的な方向性の決定をしっかりと行ってもらいたい。子どもにとってより良い方向を目指してほしい。

【市】

国や教育委員会では子どもにとっての学校での適正な生徒数は出ているが、

それだけを基準にするわけにはいかず、地域ごとの状況を勘案していく必要があります。なるべく多くの地域の声を聞いていきたいと思ひます。

吉野谷地域の子ども会で、統合に賛成する意見が出ていることは、参考にさせていただきます。

【参考】

<学校規模適正化に係る基本方針より>

・適正な学校規模

小学校、中学校ともに 12 学級から 18 学級

・適正な学校配置（児童生徒の通学条件）

①通学距離

徒歩や自転車の場合、小学校でおおむね 4Km 以内、中学校でおおむね 6Km 以内

②通学時間

おおむね 1 時間以内